

Close Up

クローズアップ 福祉安全運転

運転リハビリテーションにKYTを取り入れ、安全運転習慣の獲得を目指す

桔梗ヶ原病院(長野県塩尻市)は、脳血管障がいのある方などの運転再開に向けた支援(以下、運転支援)を行っている。2024年からはHondaのホームページで連載している動画による「危険予測トレーニング※(以下、KYT)」を運転リハビリテーション(以下、運転リハ)に取り入れ、患者の安全運転への意識づけに役立てている。

桔梗ヶ原病院は2014年に運転支援を開始し、2016年に簡易型四輪シミュレーター「Hondaセーフティナビ(以下、Sナビ)」を導入した。Sナビは運転能力評価サポートソフトを搭載しており、病院施設などでクルマの運転を再開したい人の運転能力評価や運転訓練に活用することができる。Sナビの導入に合わせ、同病院は作業療法士と言語聴覚士で構成される運転支援チームを発足させた。この運転支援チームのメンバーが中心となって、運転再開を希望する患者への運転リハに取り組んでいる(右図参照)。

KYTを運転リハに取り入れた目的について、同病院長 園原和樹さんは次のように説明する。「私たちはSナビを使って、『目視・安全確認』『危険予測』『徐行・一時停止』に重点を置いた指導を行っています。この中で課題となっていたのが『危険予測』でした。

シミュレーターでは危険場面に遭遇しても、その特性上、その場で一時停止することは難しく、場面が進行してしまいます。後から危険場面を再生する機能はありますが、それだけで危険予測能力を高めることは難しいと感じていました。そこで注目したのがKYTです。Sナビと同様に動画ですが、危険場面の直前で静止するので時間をかけて何が危険かを考えることができます。安全運転への意識づけには最適だと思いました」。運転支援チームはKYTをSナビに移行する前のリハビリテーション課題と位置づけ、2024年から導入した。ドライバーを対象にしたKYTの中から基本編として25場面、応用編として28場面を選定。基本編は昼間の市街地や郊外路(農道含む)、応用編は高速道路や山道に加え、夕方・夜間・雨の日・雪の日のシーンである。入院中の患者に1回で20場面以上のKYTに取り組んでもらい、「○(複数の危険を予測できる)」「△(助言のもと危険を予測できる)」「×(助言しても危険の予測が困難)」の3段階で評価している。

KYTを実施することで、Sナビに移行した時には、どこに注意すべきか、危険を予測しようという意識が身についていると園原さん

はいう。「Sナビには視線解析装置を取り付け、患者がどこに視線を向けているかを画面に表示できるようにしています。KYTをせずにSナビを体験していた時は、視線が一点に固定されることが多かったのですが、KYTを行ってからは確認する範囲が広がり、明らかに危険とわかる箇所以外も見ようになりました。KYTは危険予測に特化して訓練できる点が良いと思っています」。また、KYTとともにSナビへの移行前に標識トランプも取り入れた。交通標識の図柄のトランプを患者に見せ、標識を正しく理解しているかなどを確認している。

「患者さまが運転を再開した後に事故を起こしてしまっては意味がありません。運転リハを通じて、病気になる前よりも安全に運転していただくことを目指しています」と運転支援チームのメンバーは口をそろえる。

そして、運転支援チームはKYTや標識トランプによる指導を運転リハだけでなく、高齢者の運転寿命の延伸にも役立てられないか、その可能性を探っている。

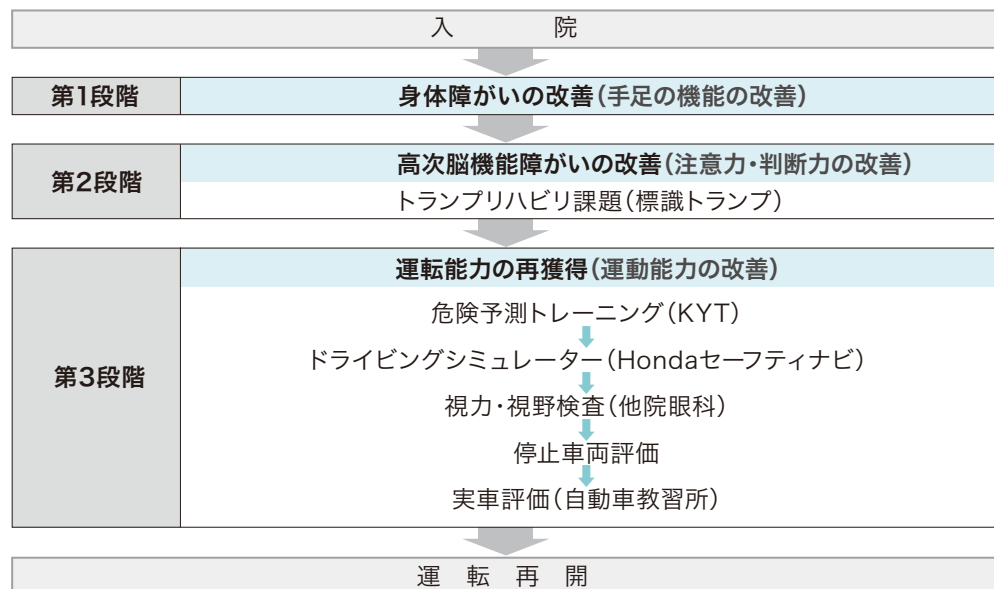


Sナビと視線解析装置を活用し、患者が画面のどこに目を向けているかを確認している



桔梗ヶ原病院 病院長 園原和樹さん(写真中央)と運転支援チームの皆さん

●桔梗ヶ原病院の運転リハビリテーションの流れ



SCENE 78

市街地の交差点

右折して横断歩道を横切るところです。



KYTの基本編として患者に提示している交通場面の一つ(市街地の交差点)



桔梗ヶ原病院が独自に制作した標識トランプ(表面)



裏面には標識の意味が記載されている

※Hondaの動画によるKYTについては以下のホームページ参照。
<https://global.honda.jp/safetyinfo/kyt/training/>

(公財)国際交通安全学会

2026年 ユース活動助成金 10月1日より募集開始!

(公財)国際交通安全学会(International Association of Traffic and Safety Sciences 以下、IATSS)は学校現場での交通安全教育、若者の主体的な交通安全の活動を賞賛し、その活動の継続や発展を支援することを目的とし、助成事業を開始しました。

応募期間内に活動内容を申請し、IATSSによる審査を通過すると1件当たり上限30万円が助成されます。

応募期間	2025年10月1日～2026年1月31日
対 象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校等で行われる交通安全教育活動(学年、部活動、児童会・生徒会活動、教育活動におけるグループ活動も可)
対象となる活動内容	「学校現場での交通安全教育の活動を支援」する目的から学校行事、こどもたちや若い人たちが主体的にかかわる活動を対象としています。 ※詳細は当学会ホームページをご確認ください。
助成金額	1件当たり上限30万円
助成期間	2026年4月に支給。ただし、申請対象とする活動について、活動期間内に他の関連団体からの助成金を受ける予定がないことを原則とする。(過去の助成金は問わない)

▶ 応募方法などの詳細はIATSSホームページ参照(2025年10月1日公開予定)
<https://www.iatss.or.jp>